

木の塊から削り出す木製品づくり

株式会社ササキ工芸 代表取締役 佐々木 雄二郎

URL <http://www.sasaki-kogei.com/>



■ササキ工芸とはどのような工房か

ササキ工芸は、私の実父である佐々木邦雄が1976年に創業した会社です。もともとは家具の下請けからスタートした工場ですが、いまは木製小物作り専門の工場です。

旭川は昔から家具の産地として多くの家具メーカーが家具を作っていますが、時代の流れと共に浮き沈みを繰り返しながら今に至っています。父がササキ工芸を創業した当時は、日本の高度経済成長期であり、旭川の家具業界も隆盛を極めておりました。

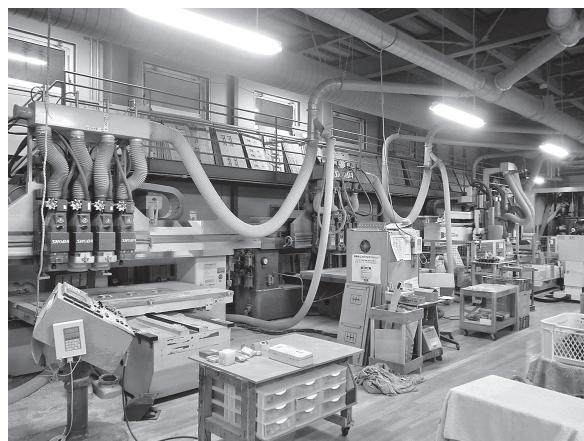
当時の旭川家具の主流は箆筒であり、「婚礼ダンス」、「花嫁ダンス」ともいわれ、結婚の際に箆筒を購入して嫁いでゆくというのが当たり前の時代で、旭川家具も全国各地の間屋さんを経由して、多くのエンドユーザーのもとへ運ばれてゆきました。当時の旭川での家具作りは、ちょっとした分業制を取り入れており、ツマミ・取手・引手など細かな部品は家具メーカーの社内ではなく外注先で作ることが多く、ササキ工芸も複数の家具メーカーの下請けとして細かい木材の加工を担っていました。

ササキ工芸の創業当時は、次から次へと仕事が舞い込み、とても忙しい時期だったようで、独立して間もなく自宅兼用の自社工場を建て、加工機も増やし、新たに社員も採用して事業を拡大していきました。また、いまでは多くの家具メーカーで導入していますが、当時はまだ世の中に出てきたばかりのNCルーター加工機を導入するなど、先端設備にも投資をしながら将来を見据えて事業を拡大をしていたようです。

そんな高度経済成長期も終焉に近づき、また国民の生活様式が和風から洋風に変わることで家具の需要が大きく変わり、旭川家具の主流であった箆筒の需要はクローゼットの登場で激減していきました。

このような状況の中、旭川の家具業界も大きなダメージを受け、多くの家具メーカーが事業を停止し、今では箆筒専門の家具メーカーがすべて姿を消してしまいました。

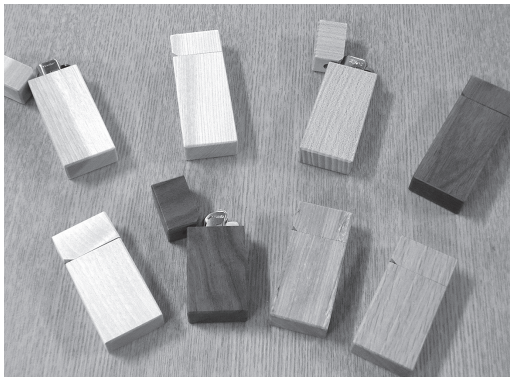
それに伴い、ササキ工芸の仕事もどんどん減っていく中で、家具の部品を加工する際に余った木片に注目し、家具には加工できなくても、木製小物には加工できるのではないかとの発想から、家具の下請けで培った技術を使い、さまざま小物づくりに挑戦していきました。



NCルーター等の工場内

そうした挑戦の中で、木製の100円ライターケース「モクター」が大ヒットし、小さな規模の工場としては異例の出荷累計100万個を突破するなど、家具メーカーの下請けだけでなく、自社オリジナルの木製小物作りでもやっていけるという活路を見出しました。

そして、気が付けば家具メーカーからの仕事は全くなくなり、ササキ工芸は木製小物作り、特にNCルーターを駆使して、木の塊から削り出す加工を得意とする木工加工工場となりました。



モクター

■木工の理念、考え方

私が父から会社を引き継いだのは2011年で、就任早々にある勉強会に参加し、そこで得たものを参考に経営理念を作成し、会社に掲げています。

理念は2つあり、1つ目の理念として、「私たちは世界の人々が「喜び」「感動」「安らぎ」を感じるモノづくりをします」を掲げ、日本国内だけでなく世界の人たちに愛用されるような木製品作りを目指し、実際に海外へ少しずつ販路を広げています。

一時期、日本のモノ作りは人件費の高さから海外（特に東南アジア）へ生産拠点を移し、安く大量に作ることを主眼に置いたことがありましたが、私の考えとして日本人の持っている感性や情熱を持って作られた製品は、海外のモノ作りではなかなかまねのできない質の高いものであり、実際に製品を手にとっただけでも、感動してもらうことが出来るような製品をお届けできると信じていますので、ここ旭川でのモノ作りは譲れない部分です。

2つ目の理念は、「私たちは森の恵みと人との出会いに感謝し共存共栄できることを目指します」です。

木製品を作っているササキ工芸にとって、原材料となる「木」を生産する「森」は、とても大切な存在であり、森から供給される木によって私たちの活動が支えられています。ですから、木を使うだけでなく、森を育てる活動も行っており、年に1回だけです。春の時期に旭川近郊の山で開催される植樹活動（旭川家具工業協同組合主催）に社員全員で参加し、みんなで手分けして数千本というミズナラの苗木を植えることで森への感謝の気持ちを忘れないようにしています。

また、ササキ工芸で購入した木は、出来るだけ無駄のないように使い、より多くの人たちに木の温もりを感じてもらえるような製品作りを心掛けると同時に、木くずは捨てるのではなく、夏の間ため込んでおいて、冬期間の厳しい寒さの旭川でも快適に作業が出来るための工場の暖房の燃料として使うことで、最後まで社内で使い切ることを意識しています。

それから、地域への感謝も忘れないよう地域の活動に参加したり、社員には町内会などの地域の行事には積極的に参加するよう日頃からお話をさせて頂いています。

特に私たちの住んでいる旭川は、木の街・家具の街と言われるほど「木」に関する情報やノウハウが蓄積されており、その蓄積に裏付けされた技術は、他の地域ではなかなかまねのできないものだと思います。ここ旭川で活動しているからこそそのメリットは、自分たちではなかなか気が付かないものですが、他の地域の人たちと情報交換をする際に、木の加工に関してとても恵まれている環境だということを実感することがあります。

旭川でモノ作りが出来ることに誇りを持ち、ここで活動させて頂いていることに感謝しながら、世界の人たちに喜んでもらえるモノ作りを今後も続けていきたいと思っています。



木製品づくり

■主力製品

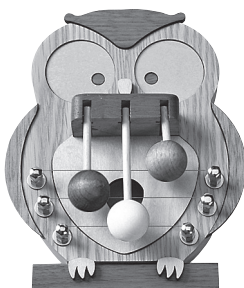
一言で表現すると、木製クラフトです。家具とは違い、小物と言われる分野で、名刺入れや印鑑入れなど実用的なモノから、時計などのインテリア雑貨、ドアに取り付けるだけでドアの開閉で心地よい音が響くドアメロディ、木製ゴム鉄砲などの玩具な



印鑑ケース



カードケース



木製クラフト品の数々

ど、さまざまな自社ブランドの木製クラフトが主力商品です。

それともう一つ、世の中ではササキ工芸で加工したということが知られることがほとんどありません

し、ここで固有名詞を列挙することができませんが、さまざまな分野の企業様からのご依頼で木製のケースや部品などの加工も手掛けています。

■こだわっている樹種と入手のしやすさ

旭川の特徴なのかもしれませんが、広葉樹が豊富に手に入ることから、ササキ工芸では広葉樹の加工に特化しています。本州では、杉や檜など針葉樹の流通が多く、それを加工する工場も多いと思いますが、当社は苦手とする分野になります。

当社で扱っている広葉樹は、メインが北米産のウォルナット材で、工場でする木材のおよそ半分ほどです。残り半分は、ナラ材、タモ材、ニレ材、セン材、カバ材、メープル材、チェリー材など、その用途や色の違いなどを考慮して使っています。

これらの樹種の入手のしやすさですが、これは本当に旭川が木の街・家具の街という恩恵を感じる場面ですが、需要があるところにモノは集まるということで、当社だけでなく多くの家具メーカーが木材を消費するため、旭川では多くの木材の製材会社が



保管している材料



保管している材料

活動しており、さまざまな樹種が各製材会社から供給されていますので、入手しやすいと感じています。

■針葉樹の活用

ここ北海道でもカラマツ、エゾマツ、トドマツなど針葉樹が流通していることは充分承知していますが、前述したように当社は広葉樹を専門に加工しており、今後も広葉樹の加工に特化した工場として活動を考えているため、残念ながら今のところ針葉樹の活用は視野に入れておりません。

■今後の展開

理念にあるように、この先も世界を市場として捉え、多くの人たちにササキ工芸の製品を愛用してもらえるよう各国の文化や風習なども考慮したデザイン性のある製品を作っていきたいと思えます。

そして、ササキ工芸の製品を手にとった人たちが「さすが日本製はいいね」と言ってもらえるような質の高いモノづくりをしていきたいです。

■林産試験場に望むこと

木材は、空気中の水分を吸ったり吐いたりしながら湿度調整の役割を持っている所が良い点ではありますが、木製品として加工した場合、微妙な精度で作られたものは、この湿度調整機能が原因で、フタが閉まらない（もしくは開かない）、反ってきたなどの不具合を引き起こしてしまいます。

樹脂の含侵や塗膜を厚くするなどの解決策はあると思いますが、もっと手軽に、そして小規模な工場・工房でも導入できるような方法があれば教えて頂きたいです。

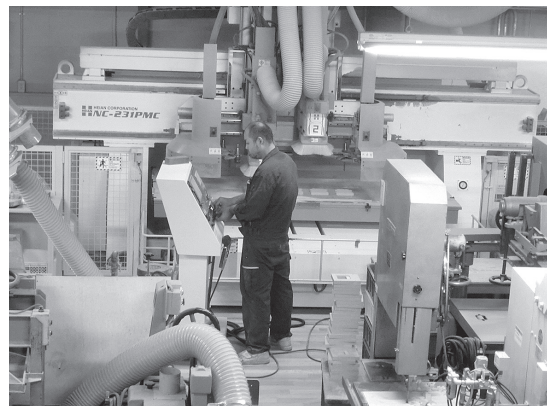
当社では通常のウレタン塗装の2回塗りをしていますが、これぐらいの塗膜では木材が伸縮したり反ったりしてしまい、特に夏の期間は、旭川で不具合が無くても東京に届いたとたんにも不具合が出てしまい、返送して旭川に届くともとに戻るといった事例が発生しています。

■今後の旭川について

旭川では3年に1度、世界規模の家具のデザインコ

ンペ（IFDA）を開催しており、日本国内だけでなく、海外でも家具作りの盛んな街という認識が出来つつあり、全国各地からモノ作り、特に家具作りを目指して人が旭川に集まってきています。

これを家具だけでなく、木製クラフト作りも含め、旭川が木の街という認識を多くの人たちに広め、木に関わるモノ作りがしたいと思う人が集まる街、そして集まった人たちが安心してモノ作りができる街になって欲しいと思っています。



モノづくりのようす

そして、木に関わるモノ作りだけではなく、ガラス、陶器、皮革、ファブリックなど、さまざまな素材のモノ作りに関わる人たちが集まり、そしてモノ作りに新たな息吹を吹き込む、多種多様なデザイナーが集まる街になると、街も人も元気になるのではないかと考えていますし、そうなるよう微力ながらもお手伝いできればと思っています。

いずれはササキ工芸の製品を手に取り、愛用してくれたお客様が、実際に作っている現場を見てみたいと思ひ、世界各地からここ旭川に来てくれるような状況になると嬉しいことだと思っています。